

報 告 書

講 座 名	令和 6 年度かながわ自治体の国際政策研究会 情報交換会 (令和 6 年度災害時外国人住民支援担当者会議と合同開催)		
日 時	令和 7 年 3 月 14 日(金) 13 : 30～15 : 00	方 法	オンライン
主 催 者	かながわ自治体の国際政策研究会	出席者	県内自治体職員及び国際交流協会等職員 39 名

【目的】

災害時に備えた外国人住民への対応について、他団体から事例紹介をしていただくとともに、参加者間で意見交換を行うことにより、災害時の外国人支援を効果的に実施する方策について理解を深める機会とする。

【内容】

1 開会挨拶

藤木事務局長（神奈川県国際課外国籍県民支援 G L）より挨拶。

2 事例紹介

配布資料に沿って、各団体から取組内容を紹介いただいた。

(1) 鹿児島県鹿児島市（鹿児島市危機管理課 前田氏）

「桜島火山爆発総合防災訓練～外国人への対応～」

(2) 岡山県総社市（総社市人権・まちづくり課 宝垣氏、譚（たん）氏）

「総社市外国人防災リーダー養成研修」

3 質疑応答

(質問)

- ・ 神奈川県には箱根山という火山があるが、数年前に噴火警戒レベルが上がったとき、対応に苦慮した。桜島火山での対応について伺いたい。

(回答)

- ・ 桜島は常時噴火警戒レベル 3 となっていて、火口から 2 km 以内は入山規制がかかっている。地殻変動などがあると、段階的に噴火警戒レベルを引き上げる。初めに、噴火警戒レベル 4（警戒範囲 3 km）で、次に噴火警戒レベル 4（警戒範囲 7 km）、これは桜島全体が対象となる。その後に噴火警戒レベル 5 となる。
- ・ 令和 7 年度に火山防災研究所を開設する。タイムラインはこれから研究していくが、現段階では、前回起きた大正噴火のタイムラインに沿って避難計画、避難誘導を行う。噴火警戒レベルが 4 から 5 になって、噴火するまで 30 時間くらいである。それくらいの時間の猶予はあると思っている。

(質問)

- ・ 逆に言えば 30 時間しかない。

(回答)

- ・ 噴火警戒レベル 4 に引き上げるときは、1 か月くらい前から兆候が見える。マグニチュード 2.0 の地震が 12 時間以内に 10 回以上などのトリガーがあるため、そこからは 30 時間くらいあると考えている。

4 情報共有・意見交換

5 グループに分かれ、事例紹介の感想及び自団体での取組状況等について、情報共有・意見交換を実施した。

◆情報共有・意見交換の内容◆（一部抜粋）

- ・ 多言語シートをこれから自団体で更新するので、鹿児島市の取組を参考にしたい。
- ・ 避難所におけるアプリの活用についても参考にしたい。
- ・ 総社市の外国人防災リーダーは、外国人を中心に検討を進めており、参考になった。
- ・ ハザードマップの多言語化について、参考になる取組があれば聞きたい。
- ・ 外国人住民向けの防災セミナーを行っているが、運営側の対応についても改めて検討が必要だと思った。
- ・ やさしい日本語での対応、外国人を意識した避難所運営について意見交換した。
- ・ 鹿児島市の訓練は2段階に分けて実施しているところが素晴らしい。避難するときと、実際に避難所に移動した後では、必要な情報や必要なものが異なる。例えば隔年で訓練を実施するなど、自団体の取組の参考にしたい。
- ・ 外国人の増加に伴って、防災リーダーのように、外国人当事者がコミュニティも含めてお互いに助けていくサポート体制ができていくとよい。
- ・ ホームページの多言語化、自動翻訳の活用について、外国人比率の変動なども踏まえながら、多言語化したり、やさしい日本語を含めて情報提供をする必要がある。情報を伝えていくことが必要だが、いかにして当事者に伝えていくかが課題である。
- ・ 事例発表について、支援者を集めた方法と、対象言語の選定方法を伺いたい。
- ・ セミナーや広報媒体で外国人に周知しているが、災害時だけでなく、平時からどうつながりを作っていくかが課題である。予算の関係で、多言語化するにも限界がある。
- ・ 防災無線、避難所の通訳対応、外国人の相談対応などについて意見交換した。セクションが二つにまたがっているため、両者の連携に関して課題を感じている。
- ・ 指差しカードは、実際に活用できると便利である。総社市の外国人防災リーダーは、精力的な活動がとても印象的で、いざというときに大変力になると感じた。
- ・ 外国人防災リーダーのモチベーションを保つ方法、人の集め方について聞きたい。
- ・ 平時から防災情報メールの周知や、災害多言語支援センターの設置運営訓練、それに伴う職員への説明、指定避難所の一覧を記載したチラシの配付などを行っている。
- ・ 外国人のニーズの把握方法については、外国人で構成する会議体で意見を聞いたり、外国人を対象としたヒアリング調査を行っているという話があった。
- ・ 外国人はいるが、配偶者が大体日本人で、家庭内で対応できている。外国語ボランティアが200人くらいいて、何とか対応できている状況なので、細かいことをやらないといけな。民泊に来るビジターが多いため、その方々への対応は今後の課題。
- ・ セミナーをいろいろ実施している。やさしい日本語教室なども組み入れている。
- ・ 訓練は実施しているが、外国人を対象とした形ではない。今後そういうことをやっていく、もっと普段から危機感を持って対応していくことが大事だと思った。
- ・ 鹿児島市の取組を聞いて、火山の噴火という訓練で、一つしっかりとやっておけば、他のものもカバーできていくと思った。

＜質問への回答＞

(鹿児島市)

- ・ 支援者は、鹿児島市国際交流財団に必要人数を提示して、集めてもらった。
- ・ 対象言語は、鹿児島県に来る人が多い言語（英語、中国語、韓国語）を選定した。
- ・ 「Kago Tips（アプリ）」は、7言語（英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語、日本語）に対応している。

(総社市)

- ・ モチベーションについては、1～10まで進め方を示すのではなく、防災というテーマだけを与えて、自分自身で考えてもらっている。だからこそ参加率が高く、日本語が上手ではなく文化が違って、自分の存在が重要だと感じる。そういったところで、モチベーションを保って長く続けられていると思う。

5 閉会

(以上)